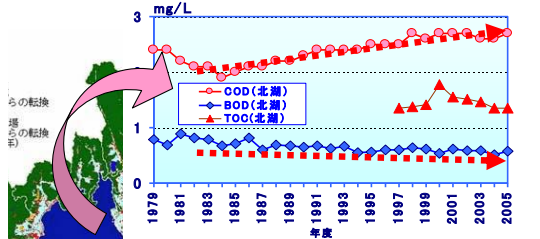
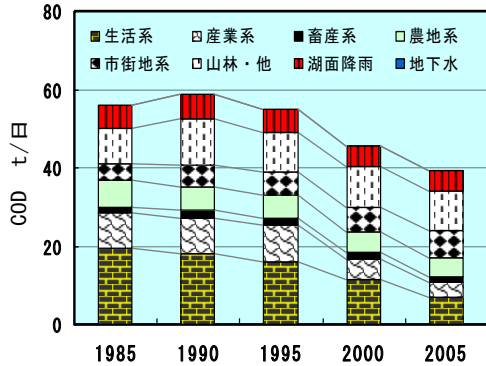


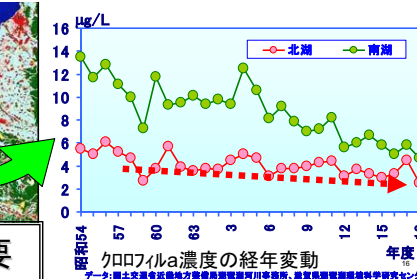
様式D B-0805 : 琵琶湖における植物プランクトンの長期変動と難分解性有機物を考慮した水質汚濁メカニズムの解明について

全国湖沼の政策課題

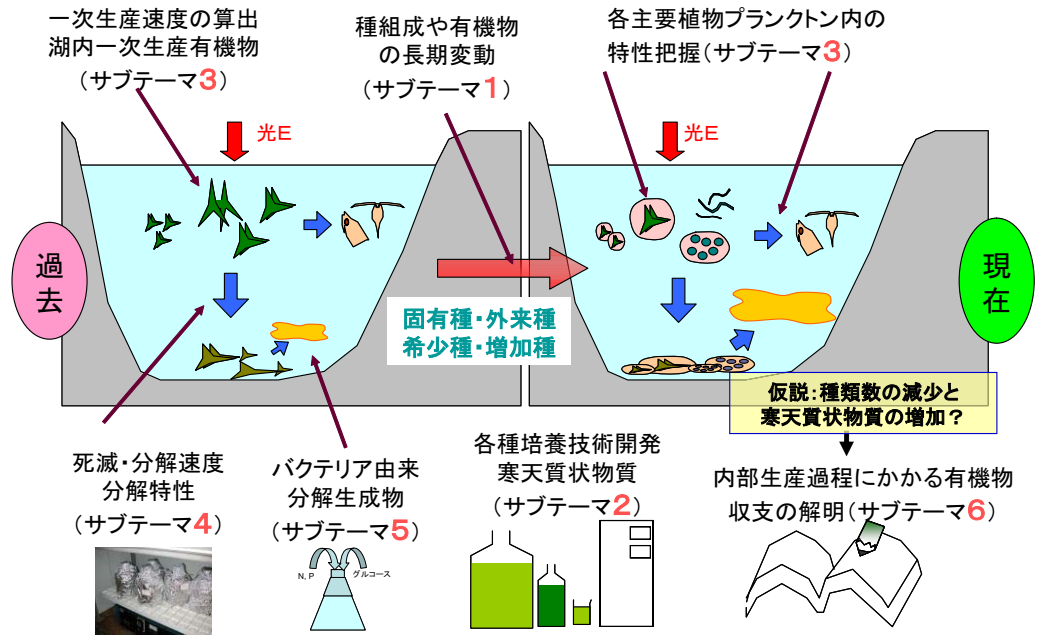
「陸域でのCOD負荷削減が進んでいるにもかかわらず、環境基準のCODが上昇し、改善しない。」



北湖における有機物指標(CODおよびBOD、TOC)の経年変動の比較



全体像:各サブテーマの役割分担



- 琵琶湖の植物プランクトン、動物プランクトンの種や現存量の変動。
- 植物プランクトンの一次生産有機物に由来する難分解性溶存有機物の負荷量はどのくらいか。
- 一次生産有機物が有機物指標に与える影響はどのくらいか。

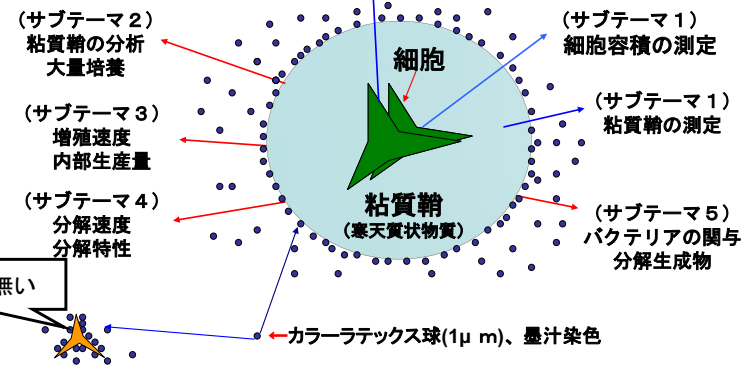
琵琶湖の内部生産過程に係る有機物収支を明かにする。

- ◎ 滋賀県の流入負荷量のデータ等と組み合わせ、琵琶湖の水質管理施策として外部負荷制御を考えるべきか否かを判断する上での根拠を提供すると共に、2011年～第6期湖沼水質保全計画にもこの成果を反映して行きたい。
- ◎ 本研究で確立した調査手法(技術)は、他の湖沼における有機物に関する水質管理施策にも適用できる可能性があり、日本全体湖沼の有機物指標を考える上でのモデルケースとなると考えられる。

本研究の到達点

当該研究の新規性(見えない有機物) 植物プランクトンが生成する粘質鞘の影響

(サブテーマ1) 現存量の長期変動と粘質鞘の長期変遷



本プロジェクトの目標(内部生産と有機物指標)

- ① 有機物の動態の定量的な把握が必要
- ② 難分解性有機物の発生源把握が必要